



石瓦
約6000枚の瓦はすべて笏谷石(福井市にある足羽山から産出)1枚20~60kgあり、屋根全體で120トンにもなります。



石垣
野面積みという古い方式で、隙間が多く、粗雑な印象ながら排水が良く大雨に崩れる心配がないといわれています。



福井震災前の石製の鯱
福井震災で落した笏谷石の鯱は現在、天守閣登り口の階段脇に置かれています。



天守土台回り
雨水流入を防ぐ天守土台回りの瑕疵は、豪雪地帯のため外壁に比べて天守石垣が、一回り大きく出っ張っています。



天守内階段
重厚な城を支える天井の梁により、この場所にしか階段を設けることができず、このような急な階段になったといわれています。



狭間（鉄砲穴）
天守の壁面に開けられた小さな小窓で、この穴から外敵に向かって石を投げ落したり、鉄砲を撃ったりするところです。



石落とし
天守閣の一階には石落としという狭間があり、石垣を登ってくる外敵に向かって、石を投げ落したり、弓や鉄砲を撃ったりする時に用いました。



石落とし
天守閣の一階には石落としという狭間があり、石垣を登ってくる外敵に向かって、石を投げ落したり、弓や鉄砲を撃ったりする時に用いました。

城外 丸岡城展望

MARUOKA CASTLE TOWN GUIDE

丸岡城散策

現存する日本最古の天守閣

【国重要文化財】

私たちが散策してきました

小さい頃から何度も来ている丸岡城。今まで見学してきたお城の中でも、素朴で庶民的な1番好きな城です。そして、丸岡の町はどのお店の人も温かく迎えてくれる、人と人とのつながりが深い城下町だと思います。

昔の丸岡城の概要



丸岡城桜まつり
4月1日～4月20日

霞ヶ城公園の桜は日本さくら名所100選に選ばれており、丸岡城のライトアップとともに約300本のボンボリが夜の桜を照らし出す光景は幻想的です。

今から400年以上前の戦国時代、北陸地方でも大名・領主・一向一揆衆の間で争いが続けられていました。天正3年(1575)、織田信長は越前一向一揆を平定すべく、大軍をこの地に動員し、今の丸岡城から東方へ約4キロ余りの山中にあった「向宗の拠点」豊原寺も、多くの寺坊が消失。その後、柴田勝家は越前(現福井県嶺北地方)に入り、北庄(現福井市)に城を構えました。早速、越前での地盤を固めたい勝家は、養子で甥にあたる伊賀守勝豊に命じ、豊原に宮城を構えさせました。翌年、勝豊は交通の利便性などから現在の場所に城を移しました。

現在の丸岡城は、濠は大正から昭和初期にかけて埋められ、本丸の天守閣と僅かに石垣を残し、城周辺は霞ヶ城公園となっています。

古風ながらも野面積みの石垣の上に建つその天守閣は、国内に現存する12の天守閣のうち、最古の建築様式を有するものです。

丸岡城の歴史



天守3階より東方面遠望(豊原寺跡)
豊原寺は白山豊原寺と号し、福井県勝山市にある平泉寺と並ぶ白山信仰の巨刹でした。朝倉始末記によれば、永正3年(1506)朝倉氏と一向一揆が激突した九頭竜川大決戦の翌年、一揆軍は再び越前侵攻を試み、豊原寺に押し寄せますが、朝倉軍がこれを撃退しています。戦国期には多数の僧兵を擁して、周辺には僧坊が建ち並び、「豊原三千坊」と呼ばれるまでに勢力を伸ばしました。

天正3年(1575)織田信長が一揆討伐のため再び越前に攻め入ると、拠点であった豊原寺は坊舎を含めすべて焼き払われ、一揆壊滅後、信長は越前支配を柴田勝家に委ねて、勝家は甥の勝豊を要害の地である豊原に置き、勝豊は築城します。しかし、谷間である豊原の地形では発展は望めず、豊原寺から西に4kmの段丘に丸岡城を移しました。

関ヶ原の戦いの後、越前に入部した結城秀康が50石を寄進し、再興されたものの、往時のような繁榮には至りませんでした。

西



天守3階より西方面遠望(三国方面)
日本有数の稻作穀倉地帯が広がり、遠くは東尋坊がある三国まで望めます。

南



天守3階より南方面遠望(福井方面)
福井市内が一望でき、その昔は北庄城、福井城も望むことができたと思われます。

データーで見る丸岡城

天守閣の高さ	12.6m	鯱の高さ	1.66m
城山の高さ	17.0m	石垣の高さ	6.0m
石瓦の重さ	約20~50kg(1枚)	石瓦の枚数	約6,000枚・重さ120t

2011.3発行 2015.9改訂

丸岡城の歴代城主

丸岡城を初めて築いたのは柴田勝家の甥、柴田勝豊。天正4年(1576)豊原より丸岡に移り築城し、四万五千石で入城しました。天正10年(1582)に勝豊が近江長浜に移り、しばらくの間、勝家の臣、安井家清という者が城番として居ました。ところが、天正11年(1583)、勝家が戦ヶ岳の合戦で敗北すると、越前の勢力図も塗りかえられました。丹羽長秀が北庄城に入った際、その臣青山加賀守宗勝が四万六千石で丸岡に入城しました。

慶長5年(1600)宗勝の子忠元が関ヶ原の役に西軍に組したため没収され、同6年、結城秀康の越前領有に際し、家臣の今村掃部盛次が二万五千石の城番として丸岡を領有しました。しかし、盛次も慶長17年(1612)の越前騒動の責任をとって失脚し、翌年に本多成重(四万三千石)が入城しました。2代藩主重能が丸岡城を現在の領地に改めましたが、4代のとき、お家騒動(丸岡騒動)により本多家は改易となりました。

元禄8年(1695)有馬清純が越後糸魚川より移り、明治維新まで8代、160年丸岡藩を治めました。明治3年(1870)3月藩籍奉還後、丸岡城は官有に。その後民有となり、その間に建物(館・門・堀・武家屋敷など)は売却され、石垣は壊れるままに放置され、明治34年(1901)、天守閣は町有になりました。



おすすめ・グルメ・ショップスポット



■そば処一筆啓上
丸岡城を見上げる場所にある。丸岡町産そばを使って女性が打つそばは、きめ細やか。やさしいおもてなしでリピーターも多い。
住:坂井市丸岡町霞町3-1-3
TEL:0776-67-1775
営:AM10:30~PM5:00
火曜はPM2:00迄(通常)
1月~2月はPM4:00迄
店長 北川 智代美さん



■LINO
丸岡城から徒歩2分の所にあり、地元の人にも人気のLINO。季節の旬の食材を使い、いつも充実したメニューで楽しめる。
住:坂井市丸岡町霞町1-23
TEL:0776-67-7077
営:AM11:30~PM2:00 (LO)
PM5:30~PM9:00 (LO)
休:毎週火曜日、第3水曜日
スタッフ 松田 かわるさん



■ヨーロッパ軒丸岡分店
ヨーロッパ軒敦賀分店で13年修業した後、本店よりのれん分けを受けて地元丸岡に戻りオープン。今まで創業30年の、常に地元の人々に愛され続けている味だ。
住:坂井市丸岡町一本田5-62
TEL:0776-67-0843
営:AM10:30~PM8:00 (LO)
休:毎週火曜日、12月31日、1月~2月
スタッフ 佐藤 駿さん



■西洋菓子倶楽部 丸岡店
1985年に誕生した丸岡店。パーティシェが作り出す洋菓子は、素材や味、デザインも含めこだわりぬいた逸品揃いだ。
住:坂井市丸岡西里丸岡3-45
TEL:0776-67-2227
営:AM10:00~PM7:00 (LO)
休:毎週水曜日
スタッフ 梅本 和徳さん



■和菓子処 おさや菓子舗
機織りの道具「おさ」を販売していた時代から「おさや」の名前で商売し、大正元年に駄菓子屋へ転向した時も店名を継続。戦後、「霞城の月」を考案しヒット商品となった。
住:坂井市丸岡本町2丁目33
TEL:0776-66-0261
営:AM8:00~PM7:30
休:毎週火曜日
スタッフ 佐野 隆さん

丸岡地区ミニ情報

丸岡に住んでいた明智光秀
明智光秀の居城、明智城(美濃)が戦国大名の斎藤義龍によって落城した後、光秀は越前に落ち延び、1562(永禄5)年頃には、新田義貞公の菩提所・称念寺(福井県坂井市丸岡町)の門前に寺小屋を建ててひっそりと生活していたそうです。その後、朝倉家に仕官したといいます。

有馬家の菩提寺
本多家4代の菩提所は本光院(丸岡町翼町)、さらに東方に、有馬家8代の菩提所高岳寺(丸岡町篠岡)があり、歴代藩主の墓標である五輪塔が緑陰に整然と佇んでいます。

丸岡城天守
野面積みの石垣、質朴な板張りの壁、手斧(ちょうな)の跡も荒々しい掘立柱と梁、小規模な天守でありながら、力感に溢れ、戦国武将の威風を今に伝え、そこかしこに古武士のイメージを抱かせる丸岡城。

1980年公開の映画「戦国自衛隊」では、口ヶ地の1つとして撮影に使われました。

丸岡城史跡の見どころ



一筆啓上書翰碑

丸岡城の天守閣石垣のそばに、「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥せ」の書翰碑が建てられています。この手紙文は、徳川家康譜代第一の功臣で鬼作左の勇名をとどかせた本多作左衛門重次が、陣中から家族에게書き送ったものです。文中のお仙とは、後に丸岡城6代目城主となる本多成重の幼名仙千代のことです。福井藩主松平忠直に仕え、数度の戦いで武勲を立て、丸岡城主となりました。この石碑が縁で、日本一短い手紙文の一筆啓上賞の始まりとなりました。



お静の涙雨

丸岡城築城の折、苦しい暮らしをしていた「お静」が、息子の一人を武士に取り立ててもらう約束で、天守柱の下に埋められました。ほどなく天守は立派に完成しましたが、柴田勝豊は近江長浜城に移封となり、お静の子は侍にもらることはありませんでした。その後、いつの頃からか、約束を反故にされたお静の靈が、毎年、年に一度の藻刈りをする卯月のころになると、春雨で堀の水を溢れさせ困らせたといいます。人々は、この雨を「お静の涙雨」と呼び、小さな祠を建てて、お静の靈を慰めました。



外堀の一部(田島川)

丸岡城を取り囲む内堀は明治時代には埋め立てられ、今は道路になっています。外堀は用水路となり、今も町のあちこちにその面影が残っています。



霞ヶ城公園

城郭一帯には、約400本のソメイヨシノ桜が植えられ、毎年4月の開花時期にその別名霞ヶ城の名にふさわしい、花の霞に浮立つ古城を眺められます。公園内には緑色の花を咲かせる珍しい桜の木もあります。



雪の井

丸岡城築城後も敵が城を襲うことがあり、その度に、天守閣横にあるこの井戸から大蛇が現れ、城に霞をかけて城の危機を救ったと言われています。このことが丸岡城の別称「霞ヶ城」の由来だそうです。

現在は大蛇が噴き出す霞を見ることはできませんが、春、丸岡城を取り囲んでいる桜の花々の淡いピンクが霞のように見え、その中に丸岡城が浮かんでいるような幻想的な景色を見ることができます。



タブの木

国神社の境内には、樹齢数百年の松や杉等が茂っていました。それらは昭和23年の福井震災で全部焼けてしましましたが、このタブの木だけが焼け残りました。樹齢400~500年位というこのタブの木は、丸岡城が建てられたころより茂っていることになります。



本多家の墓所(本光院)

本多家は成重の代、慶長18年(1613)に丸岡城主になり、寛永元年(1624)に4万6千石を拝領して初代丸岡藩主となり、2代重能・3代重昭と続き、4代重益の時お家騒動により改易となり、所領没収になりました。



一筆啓上 日本一短い手紙の館

1993年(平成5)から続けている「一筆啓上賞」日本一短い手紙コンクールの歴史と、これまでの入賞作品を紹介している資料館です。愛媛県西予市の「まほご版の絵」と一筆啓上賞のコラボ作品の展示もあります。